

心理臨床事例研究論文の検討を中心とした授業実践

心理発達臨床専攻・信原孝司

1. 概要（目的・到達目標）

本授業は、前期科目『臨床心理面接特論1』で扱った精神分析的な心理療法の展開を踏まえて、事例研究の視点から力動的な心理療法への理解を深めることを目的とした。到達目標は、心理療法の実際を学び、自分で考えて実践できるように、すなわち自立的な臨床実践ができるようになることである。

2. 導入

授業初回では、今後の授業予定を学生に周知しているが、これは学生が今後の見通しを持って授業時間前後の学習に取り組むやすくなるためである。なお、今年度は、以下の授業内容で実施した。

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 事例理解について
- 第 3回 臨床心理事例 1 【不登校】
- 第 4回 臨床心理面接 1 【不登校】
- 第 5回 臨床心理事例 2 【神経症】
- 第 6回 臨床心理面接 2 【神経症】
- 第 7回 映像を通して臨床心理面接を考える 1
- 第 8回 ディスカッション
- 第 9回 臨床心理事例 3 【心的外傷】
- 第 10回 臨床心理面接 3 【心的外傷】
- 第 11回 臨床心理事例 4 【パーソナリティ障害】
- 第 12回 臨床心理面接 4 【パーソナリティ障害】
- 第 13回 映像を通して臨床心理面接を考える 2
- 第 14回 ディスカッション
- 第 15回 振り返り・レポート提出

3. 授業の方法と形態

授業1回目と2回目は、授業者がオリエンテーションを兼ねて講義形式で実施した。1回目では心理療法の効果などに関する問い掛けを履修生に行い、前期授業の復習をしながら、後期授業の予定に触れた。2回目は「事例研究と心理臨床」のテーマで、授業者が講義した後にディスカッションを行い、事例理解の大切さや意義について理解を深めた。

臨床心理事例1～4は調べ学習が中心である。まず履修生に、不登校・神経症・心的外傷・パーソナリティ障害から担当テーマを選んでもらっ

た。そして自分達で選んだ事例研究論文を分析して発表用レジュメを作成し、授業当日の発表と他の履修者とのディスカッションを行った。

臨床心理面接1～4では、特に、臨床心理事例の発表で取り上げられなかったこと、あるいは重要な内容や希薄な領域を中心に取上げた（講義とディスカッション形式で授業を行った）。

その他、映像を通して臨床心理面接を考える1・2では、映画『野いちご』と映画『Another Woman』（邦題『私の中のもう一人の私』）を取り上げ、映画を視聴した上で臨床心理学的な視点からディスカッションを行った。

4. 授業を振り返って・アンケート結果

履修生提出のレポートでの授業評価を中心に、授業を以下に振り返った。

コメントでは、様々な領域の事例研究に触れる機会が得られ、今後の臨床実践に役立ちそうだとコメントが多かった。また、ディスカッションによって他の履修生と交流することで視野が広がったとの声も多かった。一方の課題としては、発表とディスカッションとの時間配分が残った。具体的には、発表に、あるいはディスカッションに時間を割き過ぎ、議論が深まらなかった点がある。今後はどう工夫するかを考えたい。また、調べ学習による発表レジュメ作りにおいては、最近インターネット上の情報をコピー＆ペースト（いわゆるコピペ）している場合が多く、何らかの制限を設けるか否か、要検討と思われた。

授業形態においては、授業者からの講義、担当グループの発表＋授業者からの補足をセットとし、心理臨床的な課題を考える映画の視聴＋ディスカッションという授業構成は支持が多かったため、今後もこのスタイルを継続・定着させたい。

履修者の授業時間前後学習もあって、授業進行はスムーズであったが、自分達が発表担当で無い週の事前調べ学習は不十分であった。今後は小グループでのディスカッションも織り交ぜつつ、履修者との相互性を引き出すような授業形態のあり方を検討したいと考えている。